

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0592200042	
法人名	有限会社シャトル	
事業所名	グループホームことおか	
所在地	秋田県山本郡三種町鹿渡字千刈田255-1	
自己評価作成日	平成28年11月17日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団	
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1	
訪問調査日	平成28年12月18日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

創作活動では、利用者一人ひとりの持っている力を引き出しながら意欲の向上を図り、その日の体力に合ったリズムを選んでの体操、毎日の廊下歩行などで体力低下の防止にも努めている。
 今秋から、関連会社で作った天日干し米を提供。また調理レクリエーションや選択メニューなども取り入れ、食事を大いに楽しんで頂いている。医療連携体制や地域防災協力体制を整えることで、利用者様により安心安全な生活をして頂いている。静かな環境の中、外部のお客様を利用者・職員共に笑顔を持って温かくお迎えできる雰囲気づくりを目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地区消防団へ応援要請と地域住民への参加協力依頼を駆使し、双方の避難訓練への参加を実現させている。毛布を担架代わりに利用しての利用者救助や車椅子の扱い等、消防団員にとって貴重な体験になったとのこと。介護計画には、利用者が発した言葉をそのままの方言で記載されており、利用者の思いをありのままに捉えることの重要性を強く認識していることが伺える。〈食事、お風呂、行事・活動、トイレ、職員、最後に〉の6項目に及ぶ利用者向けアンケートを作成し、結果を分析・反映させる取り組みを実施している。三種町琴丘総合支所を会場に開催された「認知症カフェ」説明会に参加した職員からの「積極的に関わりたい」との意向を踏まえ、カフェに毎回利用者と共に参加し、その理解促進に貢献している。「スタッフ個々が持っている得意な分野を発揮させ、伸ばしてやる。そして出来ないところは皆でカバーする。」との管理者の言葉通り、スタッフそれぞれの特技が業務に反映されていることが、折に触れひしひしと伝わってくる。利用者に対する声掛けが温かく、その対応に吸い込まれるような不思議な感覚を覚える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者・支援する職員お互いに、笑顔が絶えないようにと作った基本理念を胸に、毎日の業務に活かしている。今年利用者からもお力を借りた手作り”基本理念”をホールの壁に大きく掲げている。	特に誰かに支持されたわけでもなく、スタッフは出勤すると、まずうがいと手洗いをし、その足で事務室の神棚に手を合わせ、スタッフ各々が作成した自分の「個別目標」を毎朝確認することが定着している。利用者が色紙を丸め短い筒状にし、小さな筒の渦巻きの文字でホームの”基本理念”を浮かび上がらせるというアイデアには驚かされると同時に、観賞に耐えうる芸術性すら感じさせる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域包括支援センター主催の認知症カフェに職員がボランティアで参加し、地域の方と交流するなど協力体制を作っている。恒例の子供達によるクリスマス会やボランティアの来訪でも交流を計っている。	三種町琴丘総合支所を会場に開催された「認知症カフェ」説明会に参加した職員からの「積極的に関わりたい」との意向を踏まえ、カフェに毎回利用者と共に参加し、その理解促進に貢献している。利用者が作成したお供え用の彼岸花を退居した利用者の家族を含めた各家族・ホームでお世話になったすべての方々に2本1組にして届ける活動は今も継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	認知症カフェには毎回利用者と同行し、参加した地域の方々に日頃の支援の方法などを見て頂くといういい機会をもつことが出来ている。また、職員全員が認知症サポーター講習も受け、地域への貢献を目指している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者状況・活動報告により、日頃のサービス内容を知って頂き、参加者から頂いた貴重な意見やアドバイスは率先して取り込みサービスの向上に活かしている。	地区住民や消防団への協力要請に関する前回の評価結果を踏まえ、運営推進会議に取り上げた結果「ことおかだより」を地区に配達し、「地域の皆様と共に減災、不審者の乱入防止、地域の皆様よりお力添えを頂きますよう」と題した協力要請を配布した。その後、ホームの緊急連絡網への連絡先の掲載について再度確認のため訪問している。会議で、地区の長老から、過去の歴史から、危険箇所や避難場所について貴重なアドバイスを頂いたとのこと。緊急連絡網に地区住民の連絡先が掲載されているのを確認した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	利用者の入退居時の報告や、折りあるごとに訪問し情報を交換したり、運営推進会議内で相談して協力を得ている。今後も良好な関係づくりに努めたい。	第3金曜日の午前11:00が運営推進会議開催日時であるが、系列のグループホームのぞみと開催日を共有できるよう、福祉課の都合を優先することで、三種町琴丘総合支所福祉課から介護支援係担当者や地域包括支援センターの毎回の参加を可能にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会の中で身体拘束について確認し合い、日々体調の変化する利用者一人ひとりについて情報を出し合い、身体拘束をしないケアの統一を図っている。夜間以外の施錠はしていない。	現在拘束を必要とする対象者はいない。転倒の可能性のある利用者について、特に夜間はスタッフの目が届くようにホームなりに工夫を重ねている。日中は、全ての居室の入り口が明け放されており、立ち入る際は必ず本人の了承を得ている。要綱や指針等の設定及び改定の日付追加に関する前回の評価結果を踏まえ、全ての要綱や指針を再確認し、整備されていることが確認された。	マニュアルの一部に設定・改定年月日が抜けているものがあるので、整備するよう期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	夜勤者一人という状況で虐待が起きないように、日々のストレス解消法など学び、虐待に対する知識の習得にも努めている。また、スタッフ同士が注意しあい虐待が見過ごされないよう細心の注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年一名の利用者が成年後見制度の利用を申請中である。職員会議の中の勉強会では、資料を利用しみんなで勉強した。また、現在4名が権利擁護事業を利用しており、普段より担当者には密に連絡を取っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居・退居時に書類については十分な説明をし、疑問などを話し合い、改定時も速やかに文書を郵送している。電話などでも不安な点を聞きながら相談に乗り理解を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に要望投書箱を設置して、要望・意見を出せるようにしている。また、利用者の満足度調査としてアンケートをとり職員会議や運営推進会議で公表し日頃の運営に反映させている。面会終了後にも家族からお話を伺えるよう対応している。	どのように利用者の満足度を把握するか、その手掛かりとして、〈食事について、お風呂について、行事・活動について、トイレについて、職員について、最後に〉の6項目に及ぶ利用者向けアンケートを作成し、結果を分析・反映させる取り組みを実施している。	玄関に秋田県福祉サービス相談支援センターのポスターが確認できたが、できれば重要事項説明書の相談・苦情受付窓口に秋田県福祉サービス相談支援センター(秋田県運営適正化委員会)を追加するよう期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が日頃の意見や提案を出しやすいような会議の雰囲気作りを目指している。施設長の参加により意見が反映できる環境だと思う。	スタッフ各々が作成した自分の「個別目標」を、輪番で「なぜこの目標にしたのか」そして「進捗状況」について発表してもらい、緊張感につなげている。また業務上の各係の進行状況を伝えさせることが、施設長にスタッフの個性を理解してもらう機会になっている。「スタッフ個々が持っている得意な分野を発揮させ、伸ばしてやる。そして出来ないところは皆でカバーする。」との管理者の言葉通り、スタッフそれぞれの特技が業務に反映されていることが、折に触れひしひしと伝わってくる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に一度職員会議に労務・経理担当者の出席を求め、意見交換の場を設け日頃の疑問解消に努めている。また、人事考課表による個人の努力、勤務状況の把握に努めそれを給与などに反映させている。代表者含めた自社4施設による親睦会を開催し、より働きやすい職場環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全ての職員が個々の希望や年数、力にあった外部研修に参加できるよう勤務調整している。また、事業所全体で職員全員が同一の研修を受けることができるよう企画し実行している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者のイベントには積極的に参加している。また、同業者と連絡を取り合い研修に参加、その場で情報交換ができるようにしている。そこで知り得た情報は自社4施設内にて共有しサービスの質の向上に反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	関係機関や家族からの十分な情報を得て事前訪問し、施設見学時は利用者との交流を計り本人の不安や家族の要望など傾聴、十分な説明で安心して頂けるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時の家族の状態を十分把握した上で、些細なことでも聞き逃さずお話を聞き、一方的にならないよう相互に連絡を取り合いながら関係作りに努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の経験豊かな知識を拝借し、畑作りや保存食作りに取り入れ、時には夜勤を利用し悩みを相談し力をもたらした事例もあり、相互に支え合っている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の関係が疎遠にならないよう、毎月のお便りで直近の様子を写真を添えて報告、またいつでも電話でお話しが出来るような対応をしている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者本人が友人との会合に出掛ける支援をしている。本人や家族の想いを十分理解いただいた上で、連絡を取り合いながら交流して頂いている。	利用者が作成したお供え用の彼岸花を退居した利用者の家族を含めた各家族・ホームでお世話になったすべての方々に2本1組にして届ける活動は今も継続している。認知症カフェに同行した利用者が、亡くなった方の息子に偶然逢い、思い出して泣いてしまったが、泣いたことで心の整理がついて、歌ったり話をしたり楽しんでいるとのこと。家族の協力により、かつての無尽講に今も参加している利用者の事例も確認できた。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者同士の関係をつかず離れずに見守ることで、対立がおきないように、そしてお互いに支え合える関係を維持できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退後も家族とは電話や手作りの彼岸花の届け時訪問し、その後の経過を確認している。一人住まいになった家族には月1回訪問の機会を作り、相談に乗っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	面会時の本人と家族の会話から、また入浴や夜勤帯でのやりとり、日々の何気ない時間の中でもらした言葉などから、心の声を探りカンファレンスで検討、本人の立場に立ったプランの作成に努めている。	かつて毛糸の編み物を得意としていた利用者に、三角の厚紙に赤い毛糸を巻き付けてもらい、ホールの壁に何とも温かく素敵なクリスマスツリーを仕上げるという、スタッフのアイデアには脱帽する。日々、利用者個々の能力をあの手この手で引き出し、今出来る事をどんどん日課に採用している工夫に驚かされた。昼食後には利用者個々の得意とする持ち歌を披露していただいた。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴は特に重要視しており、家族・関係者から常に情報を得られるようにしている。共に暮らす(接する)中でノ本人にとっての生きがいを見出すように努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りを活用し、職員間で情報共有。一日の過ごし方に目を配り、心身状態の少しの変化にも気付けるように努めている。異変時は即時対応に努めている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各利用者に担当職員を配置することで個々のケアにより目が届くようにしている。本人や家族等関係者も含めて、情報を出し合い現状に合った介護計画を作成している。	ケース担当者が課題やニーズを資料として提出し、それをもとに、スタッフ全員の気づきや思いやアドバイスを出し合い、たっぷり時間をかけて議論している。利用者が発した言葉をそのまま方言で記載されており、利用者の思いをありのままに捉えることの重要性を強く認識していることが伺える。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の発した言葉をそのまま残した介護記録をはじめ、一日の様子を記した業務日誌など、実践→結果→工夫も全て記録に残している。その情報を新たな実践や介護計画見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町の駐在所や盆供養のためのお寺の住職さんとの交流が定着。近所に住む地域ボランティアさんは、しばしば花で季節の便りを届けてくれる。安全で豊かな生活を送れるよう支援している。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人はもとより、家族の意向も大事にした受診を行っており、受診時は主治医への細やかな情報提供に努めている。地域の薬局から専門的なアドバイスも貰えている。	近くの内科医が2週間に一度往診してくれ非常に助かるとのこと。協力医療機関であるこの内科医院の医師が、いつでも駆けつけてくれる関係を構築している。歯科医は必要に応じ往診、月2回の訪問看護が利用者・家族の安心感につながっている。隣にあるショートステイの看護師の存在が心強い。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりの中で気付いたことは業務日誌で共有し月2回訪問の看護師や週2回の往診時の看護師に報告し助言を受け、必要であれば早期受診を心がけている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関とは常に緊密な関係を維持するよう努力している。小さなことでも相談にのってもらい、本人・家族共に安心して治療に専念できるように努めている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	面会時本人を含め家族との話し合いの場を設けて、重度化した場合の指針や医療連携体制の説明を十分した上で方針を共有、今後の支援に活かす努力をしている。	昨年新たに整備した「重度化した場合における(看取り)指針」に基づき、ホームで過ごしたいとの本人の強い希望を踏まえ、家族・医師・ホームの連携により、看取ったケースを確認できた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルはいつでも目の届く所に常備し、普段から初期対応が出来るよう勉強会で確認合っている。また、隣接したショートステイにはAEDの設置があり、不安な面は看護師に相談に乗ってもらうことも出来る。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	本社の建設会社の協力のみならず、近隣住民にあてたチラシを配布し、施設の課題を理解頂き協力体制を整備、避難訓練では地域の消防団からの応援もあり、施設の立地条件などを知ってもらいたい機会にもなった。	地区住民や消防団への協力要請に関する前回の評価結果を踏まえ、地区消防団へ応援要請と運営推進会議を通して地域住民への参加協力依頼を駆使し、双方の避難訓練への参加を実現させている。毛布を担架代わりに利用しての利用者救助や車椅子の扱い等、消防団員にとって貴重な初体験になったとのこと。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念を心に置き、笑顔・優しさで接し利用者一人ひとりを十分知り得た上で人格・誇りを尊重し、プライバシーに対しても勉強会で確認し合い、日々の対応に努めている。	スタッフの利用者に対する声掛けが、実にやさしく、温かく、その対応に吸い込まれるような不思議な感覚を覚える。訪問した我々調査員も、一緒に歌ったり、リトミック体操で体を動かしたり、唄を披露してもらったり、その独特の雰囲気にも包まれるような体験ができた。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	信頼関係からくる会話や日常の行動・表情を観察し、せかずことなく自然な方法で待つことにしている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の生活履歴やその日の体調に合わせた時間配分に努め、希望を取り入れ無理のないよう支援している。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が希望すれば買い物に同行、好みの衣類を選択できるようにし、家族とも連絡を取りながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に1回は2種類のメニューの中から食べたい物を選択出来るよう選択メニューの日を設け、食券を持ち昼食で交換、食事を楽しみをプラスしている。調理レクリエーションで自分の作った物を食べる楽しみもある。下準備や食器拭きなど片付けもしていただいている。	当日は「焼うどんとだまこ餅」「バナナとみかん」の選択メニュー、我々調査員も希望するメニューを選択し、引き換えのメニュー写真をいただいた。食べるのが楽しみな利用者にとって、自分なりに調理の一部に参加することが、とても励みになり、食べることの楽しみにつながっていることが実感できた。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の介護記録の中に、食分量・残した品名、水分補給チェックリストより計上した一日の水分量を記入する欄を設け把握している。隣接の栄養士からはメニューのチェックやアドバイスをもらっている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の力に合わせ声掛け、一部介助などで毎食後のケアをしている。舌苔のチェックにより必要な方には専用のブラシも使用している。一日の始まりには義歯ケースを、終わりには口腔ケア用品の洗浄・消毒も欠かさず行っている。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツから綿パンツに変更できた利用者がある。また、夜間と昼夜で使用する物を変えるなど一人ひとりのパターンを理解した上で支援している。プライバシーに配慮したさりげない声掛けを心がけ、自立に向けている。	食前に薬と称して、ホーム手作りの紫蘇酢を服用している利用者、便通のために職員会議でその対応を話し合った成果とのこと。利用者のかすかな表情を見逃さず、便意を把握し、誘導につなげている。夜と昼の変化を習慣化し、利用者個々の特性を見逃さず、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表には時間・回数・量まで細かく記録し個々のパターンを把握している。職員は便秘の重要性を理解しており、運動を取り入れたたり、水分や食べ物の工夫を隣接の栄養士に相談しながら便秘を予防し、自然な排泄ができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員はいつでも入浴可能な準備をして希望に添うようにしている。入浴剤で香り・色を楽しんだり、仲良し利用者さん同士一緒に湯船に浸かることもあった。	利用者の希望に添えるよう、常に入浴介助の準備を心掛けている。みかんの皮を干して浮かばせたり、入浴剤の種類を変えることで変化を楽しんでもらうよう工夫している。誘って二人で入浴するほほえましい事例も確認できた。入浴を拒否される方には、足を洗おうと誘い、ズボンが汚れているから等々、無理強いせずに湯船に入るよう、様々なアイデアを駆使している。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	健康状態に合わせた日中のレクリエーションや歩行運動、生活習慣を活かした活動を取り入れるなどして夜の安眠を確保するよう支援している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	目的・副作用・用法・用量が一目でわかるリストを介護記録にファイル。体調により薬の変更・追加等があった際は、即時変更している。また、服薬介助に手落ちがないように服薬チェック表を作成し、準備者・投薬者と二重チェックで服薬事故のないようにしている。医療機関・薬局からも情報を得ている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活履歴を基に個々の力量にあった手伝いや創作活動をしている。手伝い後の感謝を伝えることで張り合いや喜びを感じていただけるよう支援している。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年に一度は昔利用していた地元の餅屋さんへ買い物に出掛けたり、お彼岸には墓参りに同行、親戚の法事などの出席も支援している。 東屋・中庭を利用し、お天気のいい日はすぐに戸外へ出られるように環境を整備している。	定番の散歩コースでは、近所の〇〇さん宅のブロックに腰掛け、〇〇さんのばあさんと一緒に唄うこともある。念願のテントを購入でき、野外での食事会が今まで以上に楽しめるとのこと。運動不足になりがちな冬は毎日廊下を歩くことを日課としている。居室の前の壁に二人の息子の家の貼物、そして息子と称するぬいぐるみが掛けられ、息子を迎えに行ったり帰宅させたりすることで、本人が歩いてくれるよう工夫したとのこと。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	調理レクリエーションでは地域のスーパーへ一緒に出掛け、食材選びから支払いまでの買い物を楽しんで頂いている。希望があれば慣れ親んだ地元のお店へも出掛けることもある。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば家族や友人など、いつでも電話可能な状態にしている。持っている力を活かし作成した年賀状・暑中見舞いだけではなく、折あるごとに本人の写真などをハガキにして遠い家族などへも送っている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・ホール内は季節感を取り入れた利用者さんの手作りの飾り物を、廊下壁面は思い出の写真などを掲示、各空間には大きな文字で表示することによって混乱のないようにしている。トイレ使用後は職員が点検するなど、常に清潔を保つように配慮している。	日々の創作活動から生まれた作品が共有空間に数多く飾られ、温かく、しかも芸術性にも富んでおり、心を和ませる。枯れかかって値引きされている鉢植えも「私の手にかかるとう元気になる」というスタッフにより、あちこちの生き生きとした植物が心を和ませる。他のホームにはない不思議と温かな雰囲気を感じる。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ほぼ全員が一日の大半を共用空間で過ごすため、気の合う方同士が語り合ったりできるよう、そして居心地のいい場になるよう工夫している。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	面会時の家族の写真や便り、希望により一日の流れを書いた用紙、外出時の思い出の品、自ら頑張った作品など、本人らしい居心地のいい場所となるようにしている。	エアコンとパネルヒーターが各居室に設置され、廊下の床暖房により当日は自然な温かさを感じる。日中はホールで過ごすことが習慣化しており、居室は寝室のような感覚とのこと。利用者の育った環境がそうであったように。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールへ入ると自分のソファ一席がわかるよう一部名前を大きく表示したり、車イスでも十分移動可能なスペースなど、自立した安心した生活が送れるよう工夫している。		